

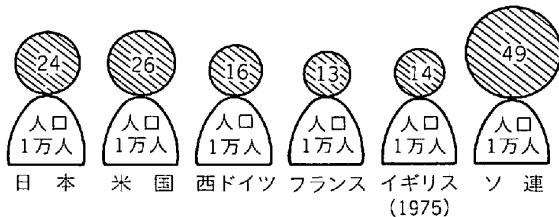
- 20) M. BLANDER : Met. Trans., 8B (1977), p. 529
- 21) O. PETER, W. vor dem ESCHÉ, and W. OELSEN: Arch. Eisenhüttenw., 27 (1956), p. 219
- 22) H. KNÜPPEL, F. OETERS, and H. GRUB: Arch. Eisenhüttenw., 30 (1959), p. 253
- 23) H. KNÜPPEL and F. OETERS: Stahl u Eisen, 81 (1961), p. 1437
- 24) G. TRÖMEL and W. FIX: Arch. Eisenhüttenw., 33 (1962), p. 745
- 25) G. TRÖMEL, W. FIX, and H. W. FRITZE: Arch. Eisenhüttenw., 32 (1961), p. 353

統 計

先進 6 カ国の人口 1 万人当たりの研究者数と
高等教育修了者

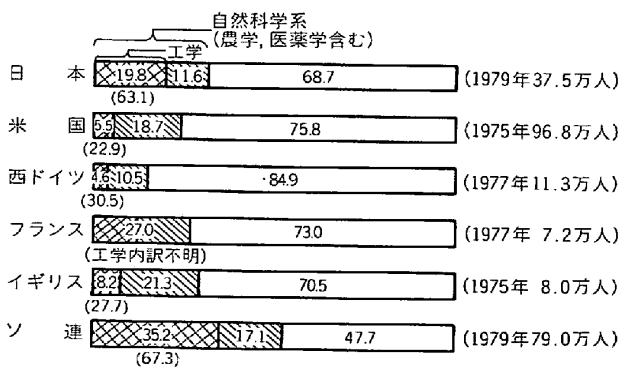
我が国の人口 1 万人当たりの研究者数は図 1 のように 24 人で、著しく多いソ連には及ばないもののほぼ米国と同水準にあり、ヨーロッパの各国に比べるとかなり多い。

こうした研究者を生み出す母体である高等教育修了者の専攻を比較すると図 2 のとおりであり、我が国は自然科学系の占める割合がかなり大きく、その中でも工学系の占める割合が非常に大きくなっており、我が国の産業面の科学技術を支えているといえよう。



注) 米国、フランスおよびソ連は人文・社会科学を含む。

図 1 人口 1 万人当たりの研究者数 (1977年) (単位 人)



注) 1. ()内の数字は自然科学系の中の工学の比率。
2. ソ連以外は学士、第1学位の取得者。
3. ソ連は高等教育機関の修了者。

図 2 高等教育修了者の構成 (単位 %)

(科学技術庁編：昭和 56 年版科学技術白書 (昭和 56 年 7 月))

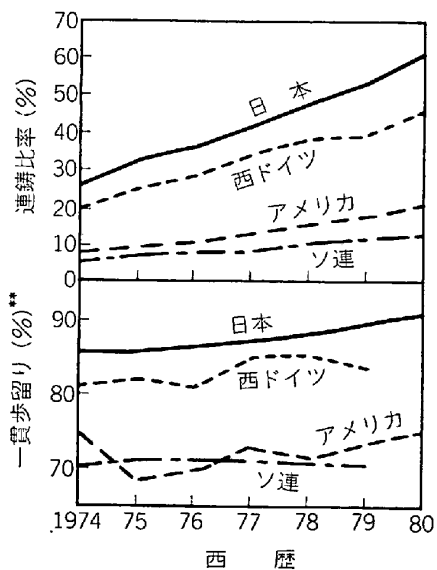
主要国の連鑄比率の推移

連続鑄造方式は従来の分塊方式に比較して省エネルギー、歩留り向上に寄与することは衆知のとおりである。

例えば省エネルギーは従来の分塊法に比較して $100 \sim 150 \times 10^3 \text{ kcal/steel-t}$ となる。そのため各国とも連続鑄造の導入には積極的である。主要国の連鑄比率および一貫歩留りの推移を示したのが図 1 である。

この図から明らかなように日本鉄鋼業でのその比率は他国のそれに比較して群を抜いているといえよう。

このことも日本鉄鋼業の競争力の強さの一面を示しているといえるのではないだろうか。



* 出典：海外鉄鋼統計 四半期報鉄連、鋼材クラブ
** 一貫歩留り：製品/粗鋼

図 1 主要国の連鑄比率、一貫歩留りの推移*